

【問題】

次頁の文章を読んだ上で、今後の大学生活全般に向けたビジョンについて、あなたの考えを六〇〇字以上八〇〇字以内で具体的に述べてください。

△出典▽

ティナ・シーリング：著 高遠裕子：訳

『新版 20歳のときを知っておきたかったこと スタンフォード大学 集中講義』（二〇二〇）一九一二三頁、CCCメディアハウス
※なお、出題にあたって、原文の一部を省略し、太字体で強調された文字を通常の字体に統一しています。

△左側の余白は、小論文の下書きなどに使用して構いません△

この本で紹介する考え方の多くは、従来の教育制度の下での教えとは対極にあります。じつは、学校で適用されるルールは、往々にして外の世界のそれとはかけ離れています。このギャップがあるために、いざ社会に出て自分の道を見つけようとする、とてつもない重圧にさらされることになります。このギャップを埋めて実社会の問題に挑もうとするのは難題ではありますが、適切なツールと心構えがあれば、できないことはありません。

具体的に話しましょう。学校では、学生を個人として評価し、成績を相対評価するのが一般的です。要するに、誰かが勝てば誰かが負ける仕組みになっています。これでは、ストレスが溜まりますが、組織はふう、そのようにできていません。社会に出れば、目標を共有する者同士がチームを組んで仕事をするのが一般的です。自分が勝てば、周りも勝ちます。じつはビジネスの世界では、大きなチームのなかに小さなチームがいくつもあって、どの段階でもうまくいくことが目標になっています。

一般的な授業では、学生に知識を詰め込むのが自分の仕事だと思っている教員がほとんどです。教室のドアは閉められ、机と椅子は教壇に向かって固定されています。あとで試験に出ることがわかっている、学生は熱心にノートを取ります。教科書を読んでおくことが宿題として出され、学生は黙々と予習します。

大学を出てからの生活は、これとはまったく違います。社会に出れば、自分が自分の先生であり、何を知るべきか、情報はどこにあるのか、どうやって吸収するかは、自分で考えるしかありません。じつは実社会での生活は、出題範囲が決められずに、どこからでも問題が出される試験のようなものです。その代わり、ドアは大きく開かれているので、何か問題にぶつかったときに、身のまわりの資源をいくらかでも利用できます。職場や家庭の問題も、友人関係の悩みも、世界全体の問題を考えるときもそうです。

チリ大学の優秀な教授のカルロス・ヒグノロは、「社会に出たら、有能な教師が道を示してくれるわけではないのだから、君たちは出来の悪い教師の授業を取りなさい」と言って、学生を挑発しているそうです。

テストにしても、大人数の授業であれば、正しい答えをひとつだけ選ぶ選択式です。採点がしやすいように、鉛筆で丁寧に楕円を塗りつぶさなければなりません。一步社会に出れば、状況はまったく違います。どんな問いにも、答えは何通りもあります。そして、その多くは、どこかしら正しいところがあるものです。

〔中略〕

世界は選択に満ちています。愛や倫理、創造性といったとても大切なものの多くは、簡単に数えることができません。たったひとつの正解を選べば、ご褒美がもらえるわけでもありません。家族や友達、隣人が、どうすべきか親切にアドバイスしてくれるかもしれませんが、どの道を選ぶかは、基本的に自分自身の責任です。ただし、最初から正しくなくとも構わないのです。人生には多くの機会が訪れるものです。試行錯誤しながら、自分のスキルと情熱を思いも寄らない形で組み合わせて、そのチャンスをものにすればいいのです。

もっと大切なのは、失敗も受け入れるべきだということです。じつは失敗するからこそ学習することができ、それを人生に活かしていけるのです。進化が試行錯誤の実験の連続であるように、最初は失敗するのがつねで、つまりくとも避けられません。最初から歩けた人はいませんし、一発で自転車に乗れた人もいないでしょう。だとすれば、学生や社会人に、複雑な課題を一回で解決しろ、と要求するほうが無茶なのです。成功の秘訣は、何か試すたびに、どれだけ教訓を引き出し、その教訓をもとに次の段階に進めるかどうかなのです。

〔中略〕

わたしが目指しているのは新しいレンズを提供することであり、そのレンズをとおして、日常でぶつかる問題を見つめ直し、将来の進路を描いてもらうことです。常識を疑い、身のまわりのルールが本当に正しいのか問い直してもいいのだと、みなさんの背中を押したいと思います。不安はつきまとうでしょうが、おなじような不透明な状況にほかの人がどう対峙してきたのかを知れば、自信が湧いてきます。そうすれば、ストレスを感じるのではなく、わくわくした気持ちになり、困難だと思ったことが、じつはチャンスなのだと気がつくことでしょう。